

『愛知県史 通史編4 近世1』

ページ	行	誤	正
2	12	一六六〇（万治三）年	一六六一（万治四）年
42	6	一六八八（貞享五・元禄元）年	一六八九（元禄二）年
42	表1-2-7	1768.11～	1749.11～
56	5	一月二十六日	一月二十五日
68	4	一六一四（慶長十九）年に成瀬正成らと共に徳川家康から初代尾張藩主徳川義直に付けられて尾州茶屋家	「成瀬正成らと共に」を削除
69	15	一七三九（元文四）年	一七四〇（元文五）年
91	5	一六四五（正保二）年	一七四〇（元文五）年
135	1	一六三三（寛永十）年	一六三四（寛永十一）年
138	2	古木津用水（ルビ：ここつつ）	古木津用水（ルビ：ふるこつつ）
138	3	新田である。	新田である（『木津用水碑文』）。
138	13	尾張藩士	人物
139	1	同藩付家老の竹腰正信によって開発された	同藩付家老の竹腰正信によって開発された（『愛知県農地史』）
168	6	前田利常・加藤清正・福島正則・浅野幸長など	削除
170	1	一六一九（元和元）年九月	一六一九（元和元）年五月
171	14	一六一〇（慶長十五）年	一六一二（慶長十七）年
186	8	代わって、	代わって翌年二月に
205	表4-2-7	清水政吉（戸田尊次【田原】次男）	清水政吉（戸田尊次【田原】弟）
210	7	『新編岡崎市史』7	『新編岡崎市史』8
226	3	一六六六（寛文六）年四月	一六六六（寛文六）年九月
226	16	一六六三（寛文三）年七月	一六六三（寛文三）年十月
228	6	一六八一（延宝九・天和元）年に四谷家は美濃高須（現岐阜県海津市）で三万石を、	一六八一（延宝九・天和元）年に四谷家は信濃国内に3万石拝領し、一七〇〇（元禄十三）年に所領のうち一万五〇〇〇石分が美濃国内に替地となり、石津郡高須を在所とした。
233	11	一七三二（享保十七）年二月	一七三二（享保十七）年三月
237	12	西小路・富士見原・葛町の遊郭を廃止して、	西小路・富士見原・葛町の遊郭は廃止の方針が打ち出されたが、まずは一つにまとめた。
247	4	一六六一（寛文元）年	一六六二（寛文二）年
247	9	一六六六（寛文六）年八月	一六六六（寛文六）年九月
254	10	一六九五（同八）年	一六九六（同九）年
254	14	同年九月	同年十月
257	10	一七三九（元文四）年三月	一七六九（明和六）年三月
279	18	中泉を去る。	中泉で死去する。
279	18	安致（ルビ：やすまさ）	安致（ルビ：やすむね）
282	1	野田三郎右衛門	野田三郎左衛門
292	4	一七二五（享保十）年七月、	一七二五（享保十）年十月、
310	1	挙母城下東町	挙母東町
342	9	翌年家族と共に鼠穴屋敷から移る	一六五八（明暦四）年家族と共に麴町屋敷から移る
402	15	『新修名古屋市史』第三巻	『新修名古屋市史』第四巻
406	11	一六七〇（同十）年	一六六五（同五）年
476	15	一七九一（寛政三）年には七八軒で焚味噌屋仲間が結成され、	一七九一（寛政三）年には七八軒で焚味噌屋仲間を尾張藩に出願し、一七九四（同六）に認可され、
483	5	一七三六（享保二十一・元文元）年	一七三七（元文二）年
501	2	九月から翌年六月まで	十月から翌年七月まで
562	2	四代藩主徳川綱誠	三代藩主徳川綱誠
588	9	（『敬公実録』元和四年二月条）	（『敬公実録』元和五年九月条）
620	14	日置（ルビ：ひき）	日置（ルビ：へき）

ページ	行	誤	正
665	5	一六六一（寛文元）年	一七四一（寛保元）年
698	表9-4-2	崇化館 1766（明和3）	崇化館 1787（天明7）
700	8	一七六六（明和三）年	一七八七（天明七）年
701	5	菅生玄淳	菅生玄淳